

Junior Sport Clubs



茨城のスポーツ少年団



2022.3.29

Vol.42

初めての女性本部長ということですが、時代の流れに沿いながら、母性的な視点で見守ってまいります。また、みんなで風通しの良い雰囲気を作っていく、茨城県スポーツ少年団をより良い方向に舵を取っていきたいと思っております。

コロナ禍ではありますが、子どもたちにスポーツの喜びを味わってもらい、心の成長を促しながら少年団活動を継続して、生涯スポーツにつながるようになってほしいと思います。

結びに、各スポーツ少年団の皆さま方のさらなるご活躍を祈念し、挨拶いたします。



茨城県スポーツ少年団
本部長 鈴木 孝子

茨城県出身 東京オリンピックピック2020アスリートインタビュー



〈少年団編〉

■少年時代はどんな子供でしたか。
じっとしているのが苦手で元気で明るく常にボールを

持って遊んでいました。小学校時代は少林寺や遊びサッカーぐらいしかしていませんでした。
■少年団を始めた年齢やきっかけは何でしたか。
6歳の時に近所の仲のいいお兄さんがハンドボールをやっていた。4歳年上の近所のお兄さんの影響で小学1年

生の終わりから入団した。2年生になって同級生が7〜8人入ってきました。
■少年団ではどういった活動をしていましたか。
自分で考える事を大切にしながら楽しくハンドボールをしていました。新治ハンドボール少年団(現在活動実績

なし)は自分で考えることをメインにしながら、ダメなことは厳しく指導されるといった感じの自由な少年団だった。ハンドボールの楽しさとは、仲間内でワイワイみんなと活動(試合)をするのが楽しい、遊びの延長のような楽しさ。
■少年団活動の経験や思い出

ハンドボール 元木博紀選手



<画像提供：日本ハンドボールリーグ>



©OSAKI OSOL

もとぎ ひろき
元木 博紀 選手

出身地：かずみがうら市
生年月日：1992年2月14日
血液型：B型
少年団：新治クラブ

から、スポーツ少年団員へ何かアドバイスをお願いします。
とにかくスポーツを好きで楽しむことが成長への近道だと思います。

■親はどのように団員や団の活動をサポートするのが望ましいと思いますか。
子どもたちが伸び伸びできる環境づくり。親は食事の管理くらいだと思う。

■少年団を経験して、指導者にはどのようなことが大切だと思いますか。
競技を教えるのも大事ですが、自分で考えて楽しむ事を重視したらいいと思います。答えを教えず、子どももの持っているものを引き出すような指導が大切だと思います。

■スポーツをする子どもたちへメッセージをお願いします。

夢や目標を持つことも大事ですが、いつまでもスポーツが好きと言う気持ちを全面に出してプレーしてほしいです。

〈競技編〉
■スポーツ(競技)をするうえで大切なことはありますか。
気持ちで負けないことです。マイナスイメージを持たない。ポジティブなイメージで行動する。



<画像提供：日本ハンドボールリーグ>



<画像提供：日本ハンドボールリーグ>

■勝敗についてのお考え(こだわり)はありますか。
 いろんな場面でも常にポジティブでネガティブなイメージを持たない様に心がけています。
 やってやるぞという気持ちになる事。指導者はそういう気持ちにさせることだと思えます。
 ■今でも記憶に残る指導者の指導やことはありますか。
 「人との出会いを大切に」
 高校時代の恩師のことは(滝川先生)

■日々の練習で心がけていることはありますか。
 どんなに疲れていても常に試合をイメージして練習しています。
 ■試合前には集中力を高めるために何かしていますか。
 コーヒーを呑みながら目を瞑って好きな音楽を聞きます。リラックスする曲でコブク口など。
 ■スポーツ(競技)をするうえでルーティーンのようなものはありますか。
 靴紐は必ず左から結びます。
 ■親の教えのようなもので、今でも生かされているようなことはありますか。
 「常に謙虚であれ」
 <オリンピック編>
 ■どのような舞台でしたか。
 全てに置いて今までと違う特別な舞台でした。
 選手村は他競技のスターがたくさんいました。
 観客がいた中でオリンピックを経験したかったです。

■1年延期になった、どうでしたか。
 延期になってしまったことはどうにも覆らないので、オリンピックまで自分を強くする時間が増えたと思うのでトレーニングに励みました。
 所属チームでは、キャプテンとして若手の育成をしたり考えられる時間が増えて、プ

元木 博紀 選手 経歴

千代田中学校→藤代紫水高校→日体大→大崎電気
 2009年：インターハイ優秀選手
 2010年：日本代表U-19
 2012年：日本代表U-21
 2011~2013年：3年連続インカレ優秀選手
 2014年：大崎電気に加入し最優秀新人賞や最優秀選手賞やベストセブン賞などを受賞し日本代表に選出される。
 世界選手権や東京オリンピックに出場。

ラスになる1年でした。
 ■オリンピックで忘れられないプレー(経験)などはありますか。
 大会中チーム状況があまり良くない中、チーム全員で勝ち取ったポルトガル戦です。
 直前練習試合のフランス戦で圧倒されて負けてしまった、不安のままオリンピックを迎えました。
 オリンピックでもデンマークに負け、エジプト、パレーンには惜敗し予選最終戦のポルトガルは劇的な勝利を収めることができました。
 ■今後の目標はなんですか。
 パリでもう一度世界にリベンジすることです！
 ポルトガル戦のようなチーム一丸となるような試合を常に行えるような日本代表にすることです。



『©日本フェンシング協会：Augusto Bizzi/FIE』



フェンシングフルーレ
 永野雄大選手

『©日本フェンシング協会：Augusto Bizzi/FIE』



<少年回編>

■少年時代はどんな子供でしたか。
 体を動かすのが好きでした。小学校時代は休み時間に草野球やドッジボールをしていました。
 ■少年団を始めた年齢やきっかけは何でしたか。
 6歳。父の影響でフェンシングを始めました。
 水戸クラブで東町の体育館を中心に水戸女子高や下館工業高で活動していた。小学校4年くらいからは週5回活動していた。活動時間は、19時~21時まで。
 ■少年団ではどういった活動をしていましたか。
 フェンシング以外の記憶は



『©日本フェンシング協会：Augusto Bizzi/FIE』

あまりありません。
 ■少年団活動の経験や思い出から、スポーツ少年団員へ何かアドバイスをお願いします。
 コツコツ頑張りましょう。
 ■親はどのようにに団員や団の活動をサポートするのが望ましいと思いますか。
 関わりすぎないようにすることが大切だと思います。父親も指導していたが特に厳しく

したり甘やかしたりということはなく、平等に指導していた。
 ■少年団を経験して、指導者にはどのようなことが大切だと思いますか。
 選手の気持ちになって考えることです。
 ■スポーツをする子どもたちへメッセージをお願いします。
 辛いこともあると思いますがコツコツ頑張りましょう。

〈競技編〉

■スポーツ(競技)をするうえで大切なことはありますか。
 考えることが重要だと思います。

■勝敗についてのお考え(こだわり)はありますか。
 自分の納得する試合ができたかを常に考えます。練習で取組んだことが、試合でできたかを考えている。理想とする試合とは、勝ち切れたときです。

■今でも記憶に残る指導者の指導やことはありますか。
 「相手をよく見る」
 父親の言葉。
 ■日々の練習で心がけていることはありますか。
 試合を想定した練習と技術を高める練習を同時にやるようにしています。

■一日の練習時間は2hほどで、時期によって2部練をしたりしています。休日は疲れを感じたときに休みます。週に1日ほど。社会人になってウエイトトレーニングを取り入れています。

■試合前には集中力を高めるために何かしていますか。
 特にないです。

■スポーツ(競技)をするうえでのルーティーンのようなものはありますか。
 特にないです。

■親の教えのようなもので、今でも生かされているようなことはありますか。

〈オリンピック編〉

■コツコツ頑張ることで、どのような舞台でしたか。

■とても緊張感のある舞台でした。もともと観客は意識はしていないので、オリンピックでの無観客は気にならなかったです。オリンピックはW杯や世界大会とは雰囲気はまるっきり違かったです。

■1年延期になって、どうでしたか。
 出場できたらラッキーぐらいに思っていたので他人事のように思っていました。

■今後の目標はなんですか。
 ワールドカップで結果を出すこととパリオリンピックで金メダルを獲得することです。

■オリンピックで忘れられないプレー(経験)などはありますか。
 相手の選手のプレッシャーの強さです。世界ランク1位のアメリカの選手は、動きや気迫など総合力で強さを感じました。



『©日本フェンシング協会/竹見修吾』



『©日本フェンシング協会』

ながの ゆうだい
永野 雄大 選手

出身地：水戸市
 生年月日：1998年1月22日
 血液型：A型
 少年団：水戸クラブ

永野 雄大 選手 経歴

水戸三中→帝京高校 (JOCエリートアカデミー) →中央大
 →NEXUS (ネクサス) フェンシングチーム
 種目：フェンシングフルーレ

フルーレは「優先権」を尊重する種目です。剣を持って向かい合った両選手のうち、先に腕を伸ばし剣先を相手に向けた方に「優先権」が生じます。相手がその剣を払ったり叩いたりして向けられた剣先を逸らせる、間合いを切って逃げ切るなどすると、「優先権」が消滅し、逆に相手が「優先権(すなわち反撃の権利)」を得ることになります。このように、攻撃→防御→反撃→再反撃といった瞬時の技と動作の応酬(剣のやりとり)がこの種目の見どころになっています。

■主な成績

- 2017年：タイ ジュニアW杯 **優勝**
- 2017年：ポーランド ジュニアW杯 **3位**
- 2018年：JOCジュニアオリンピックフェンシング選手権大会 (国内大会) **3位**
- 2019年：全日本選手権 **個人優勝**
- 2020年：全日本選手権 **個人準優勝**
- 2021年：全日本選手権 **個人優勝**

1年のあゆみ

◀◀ スポーツ大会実施競技 ▶▶



◀◀ 全国・関東ブロック競技別交流大会 (県大会のみ実施) ▶▶



◀◀ ブロック交流会 ▶▶



常陸太田市ブロック交流会「ハイパーおにごっこ」

筑西ブロック交流会「バレーボール交流大会」

日立ブロック交流会「日立市スポーツ少年団バドミントン大会」